

「SANBE でクリスマス！」

1 趣 旨

- ・家族に体験活動プログラムを提供することで、家族の絆を深めるとともに、「早寝早起き朝ごはん」をはじめとした基本的な生活習慣を確立するきっかけづくりを行う。
- ・親子で一緒に活動することにより、親子活動の楽しさを知ってもらう。

2 事業の概要

- (1) 期 日 ① 平成 30 年 12 月 15 日 (土) ～16 日 (日) <1 泊 2 日>
② 平成 30 年 12 月 22 日 (土) ～23 日 (日) <1 泊 2 日>
- (2) 会 場 国立三瓶青少年交流の家
- (3) 協 力 エムエフエス(株) (西洋フード・コンパスグループ)
- (4) 対 象 小学生とその家族 (幼児も可)
- (5) 参加者 ①100 名 (子ども 60 名 大人 40 名) 募集 100 名 応募者数 129 名
②104 名 (子ども 56 名 大人 48 名) 募集 100 名 応募者数 134 名
- (7) 講 師 和田育子 氏 (リース作り)、エムエフエス(株)江田島店 北里 武司 氏 (ケーキ作り)
- (6) 日程・研修内容

- ①平成 30 年 12 月 15 日 (土) ～16 日 (日) <1 泊 2 日>
②平成 30 年 12 月 22 日 (土) ～23 日 (日) <1 泊 2 日>

13:00	13:30	14:45	～	16:30	17:10	17:30	19:00	～	20:00	22:30	6:30	7:00	7:40	9:00	9:30	～	11:30	11:45
1 目 (土)	受付	はじまりの会	ふくろうリース作り 生地を使って「ふくろう」をハンドメイド作った「ふくろう」と木の実やドライフラワーなどを使いリースをデコレーション♪	夕食・お風呂	夕食・お風呂	クリスマスパーティー キャンドルのつどい	休息・就寝	2 目 (日)	起床	朝のつどい・清掃	朝食	退所点検	クリスマスケーキ作り 生クリームやフルーツクッキーなどを使いケーキをデコレーション♪作って食べちゃおう!	おわりの会	解散			

3 事業の特色

①プログラムデザインのポイント

「はじめてのものづくり」をテーマに、針や刃物の扱い方を学ぶ体験を通して、道具の危険性を理解し、安全に道具を管理し活動を楽しめるようにした。また、リース作りの材料は、三瓶地域で採れる自然素材を使うことで、三瓶地域の魅力を感じてもらおうきっかけとした。

2 日間の活動を通して親子で試行錯誤しながら、ひとつの物を作り上げたときの達成感を一緒に味わうことができるようなプログラムデザインをした。

② 運営 (連携) のポイント

リース作りでは、あらかじめ必要な材料や道具を袋詰めすることで、製作時間を十分に確保することに努めた。夜のクリスマスパーティーでは、事前に研修指導員と打合せを行い、クリスマスの曲やダンスを取り入れるなど、内容をクリスマス仕様にして実施した。また、子どもたちにサンタの帽子を配布したり、会場に装飾を施したりするなど、クリスマスの雰囲気を出すことを心が

けた。

ケーキ作りでは、食品衛生の観点から作ったケーキの持ち帰りは禁止とした。ケーキの材料は1家族1セットとし、食べきれぬ量とした。

③ 広報のポイント

昨年、島根県内（出雲市・大田市・雲南市・美郷町・江津市・浜田市・松江市・飯南町・邑南町）、広島県内（三次市）の各小学校1～3年生を対象にチラシを配布したところ、募集人数を大幅に超える応募があった。高いニーズがあるものと考え、今年も昨年同様の広報先・対象学年とした。

4 参加者へのアンケート結果

(1) アンケートの集計

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	95	5	0	0
プログラム	92	8	0	0
運営	90	10	0	0
職員の対応	95	5	0	0

(2) 参加者の声

- ・自分で自分の事をする生活を体験させることができ良かった。
- ・「自分で作る！」とやる気になり親が思うより子どもは意欲的なんだと気づいた。
- ・活動時間にゆとりがあり楽しく過ごすことができた。

5 成果と課題

《成果》

- ・標準生活時間を守ってもらうために、オリエンテーションやつどいの時間を伝えたことで、参加者は時間を意識して行動し、すべてのプログラムを滞りなく進めることができた。また、規則正しい生活や、他人に迷惑をかけないように早めの行動をすることを意識させることにつながった。
- ・「クリスマス」をテーマに、今後「自分の家でもやってみよう。」と思えるような体験活動を提供できたことで、親子活動を促進するきっかけをつくることができた。

《課題》

- ・参加者から、「他の家族との交流をもっとしたい」という意見があった。今後、参加者のニーズを踏まえ、交流の機会を確保するのであれば、家族間で作品の披露を行うなど、プログラムの中で家族同士の交流を促進する仕掛けづくりを行う必要がある。
- ・入所時のオリエンテーションにて、多目的ホールの使い方について注意喚起をしたにも関わらず、参加者から休憩時間中に多目的ホールで、子供がけがをしたと事後に報告があった。今後、他の事業においても共有スペースの利用の仕方について検討が必要である。



(担当：事業推進係 竹田 幸)